

令和4年度第2回 山県市立小学校及び中学校適正規模等検討委員会議事録（要旨）

日時

令和4年7月21日（木） 午後2時00分～午後3時05分

場所

山県市役所3階大会議室

出席者

委員	早川 三根夫	学識経験者
	山崎 通	市議会議員
	高屋 重義	市自治会連合会が推薦する者
	梅田 修一	市自治会連合会が推薦する者
	山口 一美	市自治会連合会が推薦する者
	神原 義典	市PTA連合会が推薦する者
	上野 泰英	市PTA連合会が推薦する者
	岩田 陽歩	市立保育園長会が推薦する者
	佐藤 千秋	市立保育園長会が推薦する者
	奥田 真也	市立保育園長会が推薦する者
	高橋 広美	市立小中学校長会が推薦する者
	石樽 千恵	市立小中学校長会が推薦する者
事務局	教育長	服部 和也
	学校教育課長	森川 勝介
	学校教育課課長補佐	渡瀬 和則

欠席者

委員	松井 元成	市PTA連合会が推薦する者
	伊藤 泰介	市立小中学校長会が推薦する者

日程

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 前回議事録の確認
- 4 自治会長向けアンケート結果について
- 5 議事 山県市の新しい学校の姿について
- 6 次回の予定

日時 令和4年10月17日（月） 午後2時～午後3時30分

場所 山県市役所3階 大会議室

- 7 閉会

会議の概要
別添のとおり

1 開会

午後2時00分開会

2 委員長挨拶

誰も気づいてないアイデアも含めていくつかの選択肢を教育委員会から示していただく。その理解のために質問やご意見など、活発な議論をお願いします。

3 前回議事録の確認

事務局が説明。(略)

4 自治会長向けアンケート結果について

事務局が説明。(略)

5 議事 山県市の新しい学校の姿について

○委員長 前回、小規模校と中規模校、それぞれのよさを併せ持った山県市ならではの学校の姿を研究するよう事務局にお願いした。本日提出された資料について、事務局から説明願う。

○事務局 説明(略)

○委員長 教育委員会から5つの案が出された。ここままで質問があればいい。

○委員 自治会長向けアンケートの回答率64%は少ないが、期間が短かったか内容が難しかったのではないか。

○事務局 期間は、配布から1週間程度とってあった。直接持ってきていただいた方の中には、自分には子どもも孫もいなくて学校の状況はよくわからないから回答しにくい、という方はいた。

○委員長 質問がなければ、ひとりずつご意見をいただく。

○委員 一人ひとりの子どもの学びに軸足を置き、多様な学びを選択できる学習環境ということを大切にしたいと感じた。山県方式小中一貫型は、思いもよらなかったことで驚いた。教科担任制について効果検証をすると、子どもたちの教科へのモチベーションが高まっているということを実感している。小6の全教科で教科担任制授業ということにとりわけ興味を持った。

○委員 山県らしい提案は魅力的だと感じた。一桁になっていく中学生が充実した学習やコミュニケーションを身につけるような手立てはどうしたらいいのかということも思った。また、隣の学校への移動に往復で1時間かかることや、低学年の複式学級だけが残る状況で担任一人と支援員がどれだけの授業ができるのかなど、魅力的ではあるが、実際に実現するにはかなりマンパワーが必要だと感じた。

○委員 前回の委員会が終わってから、地域の保育園の保護者全員にアンケートを取った。結果は、「統廃合したほうがいい」「前回の統廃合で学校がなくなった地域は寂しくなったので残してほしい」など、いろいろな意見があった。真剣に取り組まなければ、更に人口減少につながる可能性があると感じている。

教育長の提案によると、必要となるマイクロバスが増えるが、マイクロバスの

確保はどうなるのか。

定年になった小学校の先生から、バス通学の児童と徒歩通学の児童では、1時間目の授業での脳の働きが全く違うという話を聞いた。徒歩通学は脳が働いているので1時間目からしっかりと授業に取り組むことができるが、バス通学だと寝ていたり何もしていなかったりして脳が働いていないので、1時間目の授業は気を使いながらやっていたということだった。

平成19年度に文部科学省が出した「通学制限に係わる児童生徒の心身の負担に関する調査研究」の中で、「脳が賦活化していないことを懸念」「歩かなくなることによる体力低下を懸念」「部活動や放課後の教育活動が制約される」などがあり、山県方式の小中一貫はとてもいいと思うが、スクールバスの点をしっかりと考えてやっていただきたい。

- 委員 シミュレーションの小規模小学校の統合で1学級10人から30人程度になるのはいいと思うが、統合することによって先ほどのバス通学の問題は気になる。小6の教科担任制はとても魅力的で、中学校に入るための準備的な感じで進めていけたらいいと思う。
- 委員 学校数や教員数を現状維持した新しくていい提案だと思うが、やはりマイクロバスや運転手を確保できるのか、移動にかかる時間、ガソリン代、予算的なことなど具体的に知りたい。
- 委員 廃校になった地元の方が寂しいという意見があったが、それはあると思うので、できるだけ学校は残してほしい。いきさつはわからないが、中学校の生徒が小学校のプールを借りに来た。学校同士で連携すればなんとか残していけないかなという思う
- 委員 シミュレーション2は、中規模小学校が小規模小学校を吸収して統合する形だと思うが、例えば、富岡小を鳥羽川で分けて、西深瀬は梅原小に、東深瀬は大桑小や桜尾小に統合して違うメリットがあるかもしれないので、そのシミュレーションも出してもらいたい。ただし、小学校の校区のルールのあるなら難しいと思う。

根尾学園の様子を保護者から、小学校1年生から中学校3年生までみんなで運動会をやっても、やりやすい競技とそうでない競技があり、それなら低学年向けと高学年向け二つに分けてとやるという話を聞いた。小中一貫校にすると、そういう大変さもある。

不登校の学校を新たに作るというのは難しいと思うので、空き教室を活用したりして、全ての子たちに教育を与えるよう引き続き検討してほしい。
- 委員 小中一貫校にすると、通学の距離や時間の問題が出てくる。また、小規模校は子どもや保護者の人間関係が固定化される懸念がある。

- 委員 単純に統合すれば複式学級は解消されるが、地域性の問題もある。小中一貫校にして低学年は交流学习、高学年は合同授業を行うというかたちで進めるという案は、いいのではないかと思う。
- 委員 小学校は、高富、富岡、梅原・大桑・桜尾・伊自良南・伊自良北のグループ、美山・いわ桜のグループという4つの校区を考えてはみたが、シミュレーション5が一番いいと思う。
- 委員 先日、10年で小中学生が100万人減少するという新聞記事を読んで驚いた。特色ある学校に再編しないと、学校の魅力がなくなると懸念している。学校の問題だけでなくインフラ整備なども一体化させてコンパクトシティ化を進めていくのがいいと思う。
- 委員長 ここまでで、事務局から回答できることがあれば。
- 教育長 中学校の小規模化については、伊自良中や美山中の生徒は少なくなっていくので人数だけで考えれば統廃合となるが、地域の小学校と中学校を合わせてカバーするという考え方でいる。部活動は、3つの中学校どこでも同じ部活動ができるよう、既に2年ほど前から合同で行っている。
- このシミュレーションでは、移動距離が伸びるので、子どもへの影響が出る。その影響について、体力の低下は学校の中でカバーしたり、脳の働きといった科学的なことも整理したりしなければいけないと受け取っている。
- バスの台数や予算については、このシミュレーションどおりに動かすのであれば、現状の台数や予算では困難なので、必要な台数や予算は確保することになる。
- 伊自良中学校のプールについては、物理的な問題があり伊自良南小学校のプールを使用したがるが、施設の共同利用の可能性を探る好機でもある。
- 校区については、今は、高富・伊自良・美山地域で分けている。移動だけのことを考えれば、地域を越えた小学校が一番近いということもある。山県は地域で子どもたちを支えたいという思いが強いことや今後減少する児童生徒数を考慮し、慎重に考えながらも大胆な校区を考えなければいけない。
- 9年間の一貫教育は素晴らしいと思うが、実際に運用するととなると課題は多い。今、山県の教員を義務教育学校に派遣して学んでもらっているので、その知恵を借りながら具体化すればいいと思う。
- 不登校の子どもたちを支える場は必要。
- コンパクトにすることが行政上のメリットデメリットはあるかと思うが、今の子どもたちによりよい教育を提供できるよう、ある程度の規模で学習できる展開を描いている。
- 委員長 こういうことは総論賛成各論反対になりやすいことなので、そこも十分検討した上での結論とならないといけない。
- 今回の提案は、現有施設を活用する大前提のもと、教員数を減らすことなく、

小規模校の良さを生かしつつ、子どもたちのコミュニケーション能力を付けるという、いいとこ取りの教育課程をどのように実現できるか知恵を絞っていただいた。これには、各校長のマネジメント能力、教育長の強いリーダーシップ、地域の協力が必要になる。

次回、事務局には、今日の御意見を評価表に落とし込むことと、シミュレーション5の課題についてできる範囲でお答えいただき、各論に移っていきたい。

6 次回の委員会予定

(略)

7 閉会

午後3時05分閉会

上記議事録（要旨）は正当であることを認めます。

山県市立小学校及び中学校適正規模等検討委員会委員長 早川 三根夫